

国税庁におけるAIの活用

令和8年7月
国税庁

国税庁におけるAIの活用

◆ 予測AIの活用

既知のデータを基にした、将来の数値や状態に関する未知の事象の予測、機械学習、ロジカルな作業に強みがあり、申告漏れの可能性が高い納税者の判定等に活用しています。

◆ 生成AIの活用

新しいコンテンツ(文書・画像など)の生成、会話機能などに強みがあります。

令和7年12月に「AI基本計画」が閣議決定され、政府の業務において生成AI等を適切に利活用し、業務の質の向上及び効率化を推進することとされました。

国税庁においても、AIに関する最新の技術を活用し、職員の業務効率化や課税・徴収事務の効率化・高度化、納税者サービスの向上を積極的・計画的に推進するほか、生成AIの業務利用に関する職員全体の意識・スキルの底上げを図ります。

取組に当たっては、セキュリティやハルシネーションなどのリスクに十分留意していきます。

AI

予測AI

見通す力

課税・徴収事務の効率化・高度化

予測AI(分類モデル)のイメージ

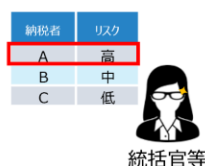
①学習(既知の事象)



②予測(未知の事象)



③職員の判断



ユースケース

- 申告漏れの可能性が高い納税者の判定
- 多様な観点に特化した予測モデルを構築
- 滞納者への催告の電話がつながりやすい曜日や時間帯を予測

生成AI

生み出す力

職員の業務効率化



何かお手伝いできることはありますか？

生成AI利用環境を整備

ユースケース(例)

- データ加工
- 翻訳
- 文書作成・要約
- 情報収集・分析

- 令和8年度中に、デジタル庁の『源内』の資材を活用した国税庁独自の生成AI利用環境を構築し、効率化を検討

課税・徴収事務の効率化・高度化

- 今後、国税庁独自の生成AI利用環境を通じた効率化策を検討
- 生成AIを活用し、滞納者との接触実績を要約する取組を推進

納税者サービス向上



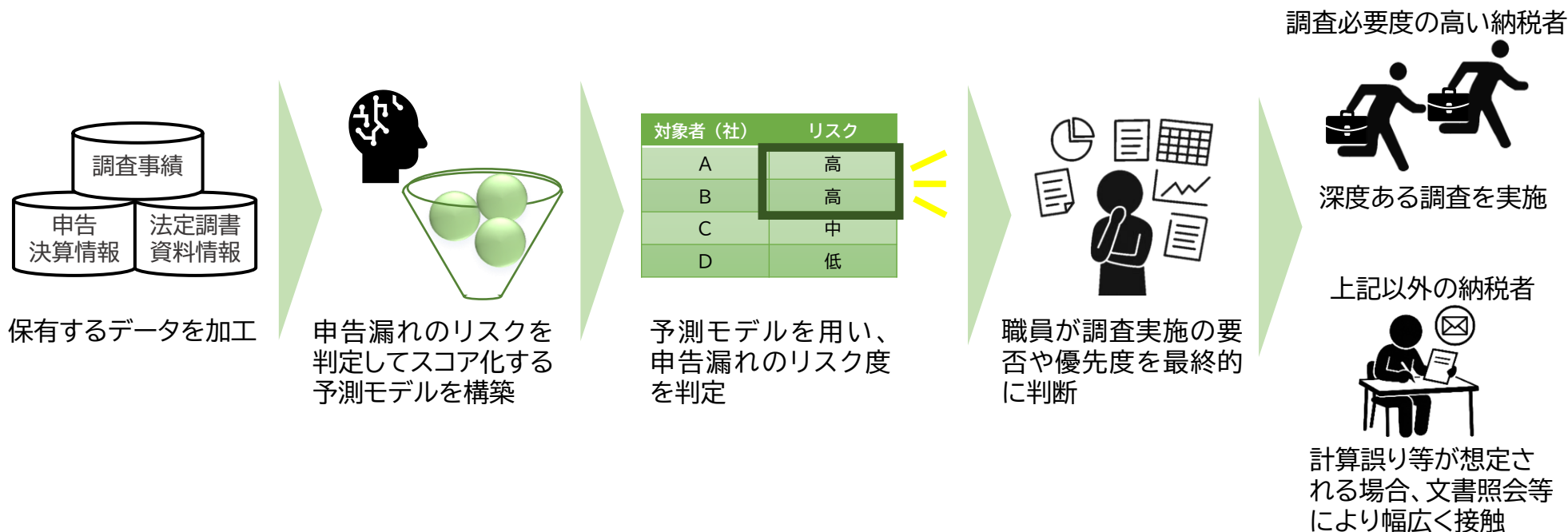
- 生成AIを活用して、納税者が税に関する情報にアクセスしやすい環境を整備できないか検討

あわせて、生成AIの業務利用に関する職員全体の意識・スキルの底上げを図る。

課税・徴収事務の効率化・高度化に向けた AIの活用

AI・データ分析の活用(①課税事務)

- ◆ AIやデータ分析を最大限に活用し、申告漏れの把握や調査の高度化に取り組んでいます。
 - 保有する膨大なデータを予測AIによって分析し、各税目等に関して申告漏れのリスクを判定してスコア化する予測モデルを構築
 - 予測モデルの判定結果に加え、申告書や保有する各種資料情報等を併せて分析・検討し、職員が調査の要否や優先度を最終的に判断した上で、調査必要度の高い納税者に対しては深度ある調査を実施
 - 予測モデルの判定結果は、全国すべての国税局・税務署で活用

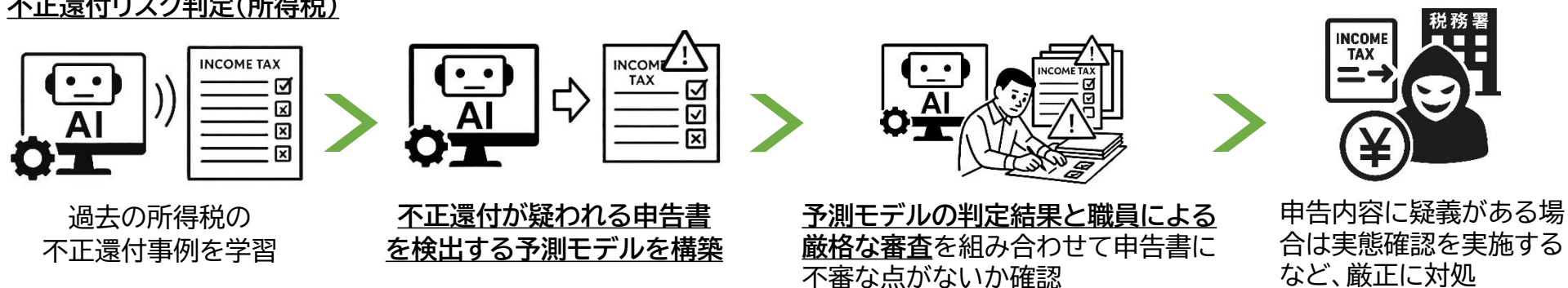


【参考】令和6事務年度 所得税の調査等による追徴税額 1,431億円(過去最高)
法人に対する調査等による法人税・消費税の追徴税額 3,672億円(直近10年で最高)
相続税の調査等による追徴税額 962億円(簡易な接触の事績の公表を始めた平成28事務年度以降最高)
※ 調査対象の全てが予測モデルを活用した事案ではない

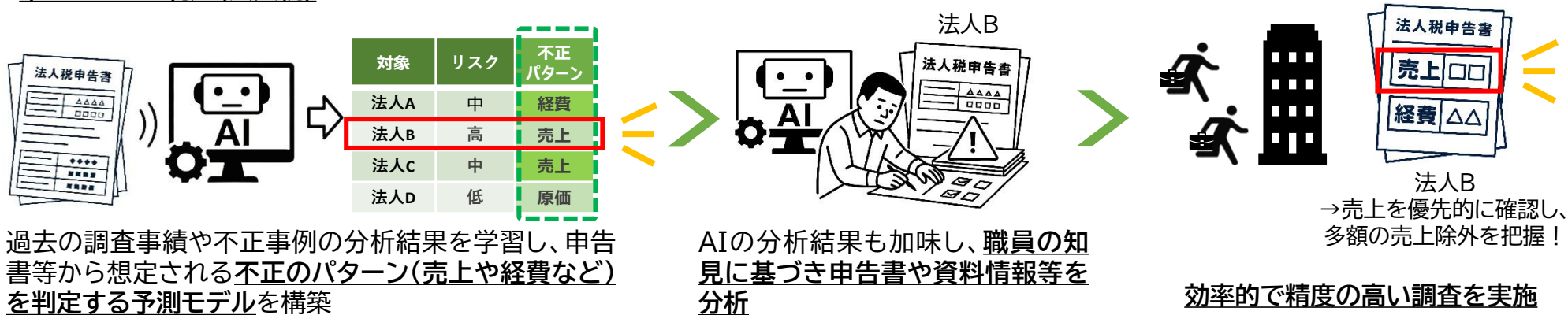
AI・データ分析の活用(①課税事務)

- ◆ 各税目等に関し広く活用している申告漏れのリスク判定以外にも、多様な観点に特化した様々な予測モデルを構築しています。
- ◆ 例えば、所得税申告の不正還付リスク判定や法人の不正申告のパターン判定など、いくつかの予測モデルの判定結果を全国の国税局・税務署で活用しています。
- ◆ いずれの予測モデルについても、判定結果の活用にあたっては、申告内容や各種資料情報等を併せて分析・検討し、最終的には必ず職員が判断しています。
- ◆ 令和8年9月の国税システムの更改において、従来書面で管理していた情報のデータ化などによりデータで管理する情報が増加することを踏まえ、構築してきた予測モデルの精度を向上させるなど、AI・データ活用による事務の更なる高度化を図っていきます。

不正還付リスク判定(所得税)



不正パターン判定(法人税)

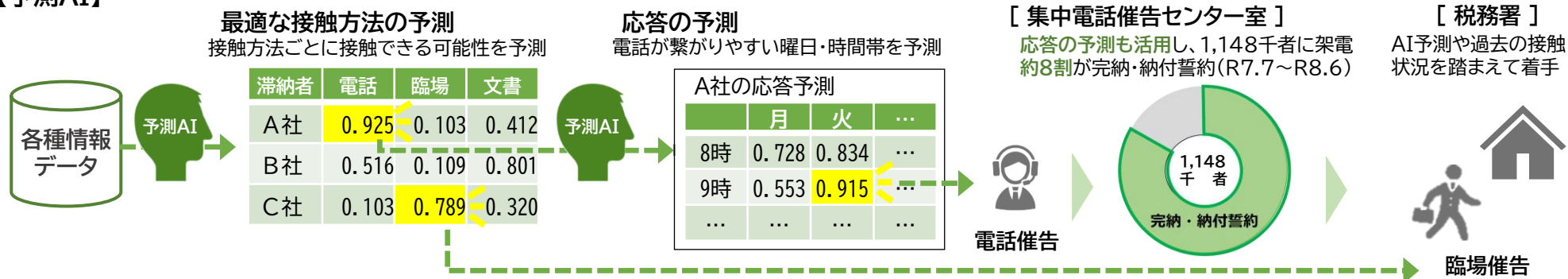


AI・データ分析の活用(②徴収事務)

◆ 予測AI・生成AIを活用した、徴収事務の効率化・高度化に取り組んでいます。

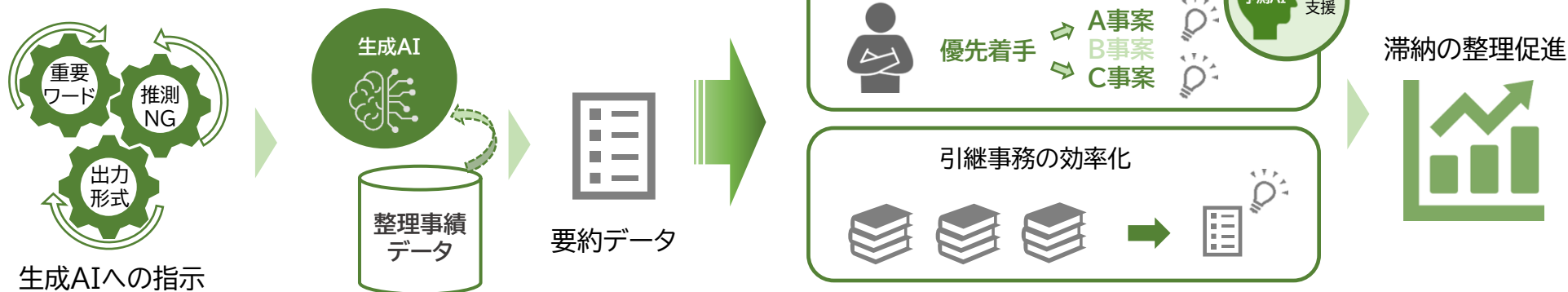
- 滞納者の各種情報(過去の接触実績、申告書データ、業種等)を基に、滞納者ごとに接触できる可能性の高い方法(電話、臨場、文書)を予測するモデルや曜日・時間帯ごとの応答予測モデルを構築し、全国の国税局や税務署において、予測結果を活用した滞納整理を進めています。
- 滞納の整理促進を図るため、生成AIで滞納者別の整理事績を要約し、優先着手事案選定事務や担当者変更時における引継事務等で活用することで、これらの事務の効率化に繋げる取組等を進めています。

【予測AI】



【生成AI】

※納税者情報の流出防止のための措置を講じたセキュアな環境で活用しています。



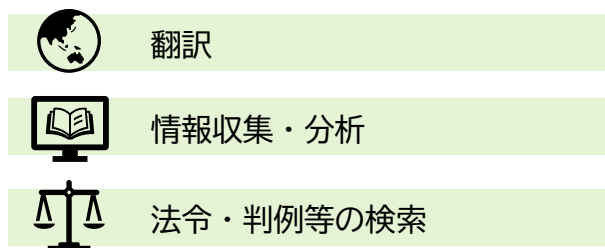
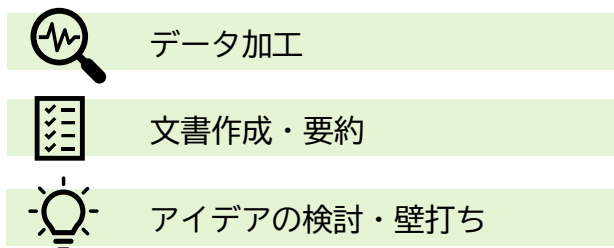
その他の業務の効率化に向けた
生成AIの活用

業務の効率化に向けた生成AIの活用

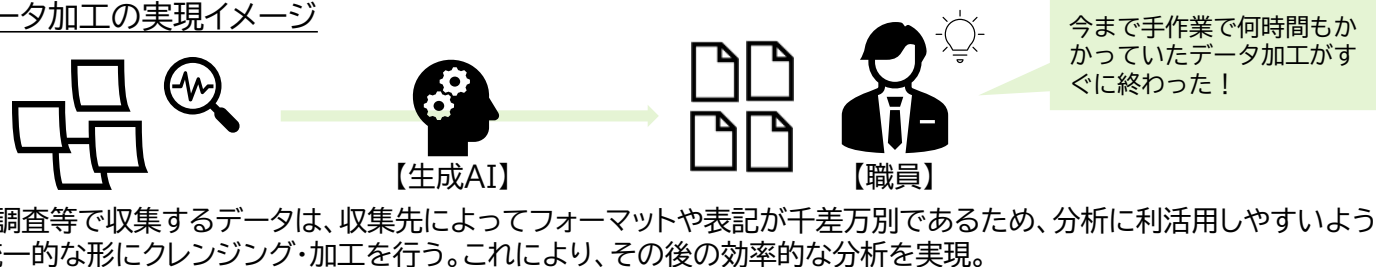
- ◆ 政府職員が利用可能な生成AI利用環境として、デジタル庁がガバメントAI「源内(げんない)」を整備しています。
- ◆ 国税庁では、調査・徴収事務で利用可能なセキュアな環境が必要であることから、デジタル庁の「源内」を基に**独自の生成AI利用環境**を令和8年度中に構築し、業務利用を開始する予定です。
- ◆ 業務における生成AIの利用を通して、**課税・徴収事務をはじめとした業務の更なる効率化**を実現していきます。

○ 国税庁独自の生成AI利用環境の業務利用

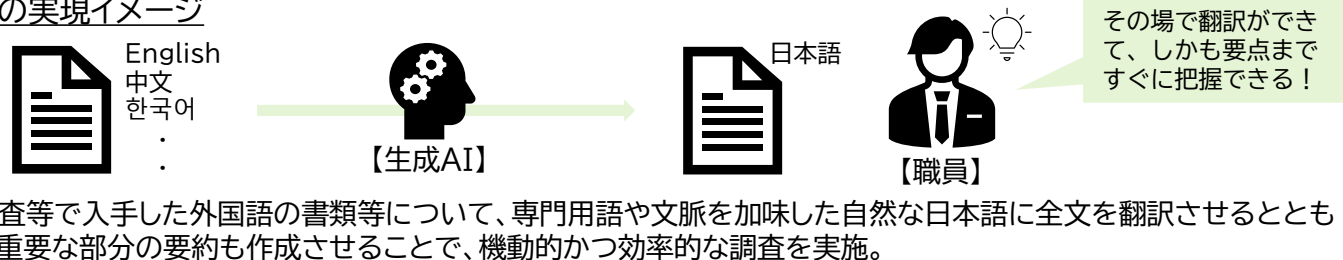
【現時点で想定しているユースケース(例)】



・データ加工の実現イメージ



・翻訳の実現イメージ



課税・徴収事務をはじめとした業務の効率化



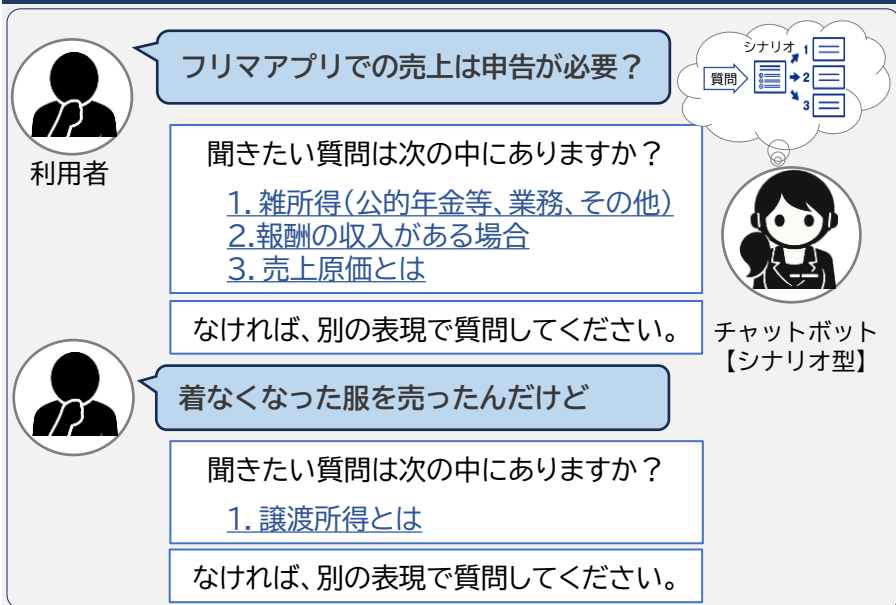
※1 生成AIの出力内容の利活用に当たっては、内容に問題がないか、必ず職員が確認することとしています。

※2 このほか、AIに関する最新技術の活用を積極的・計画的に検討していきます。

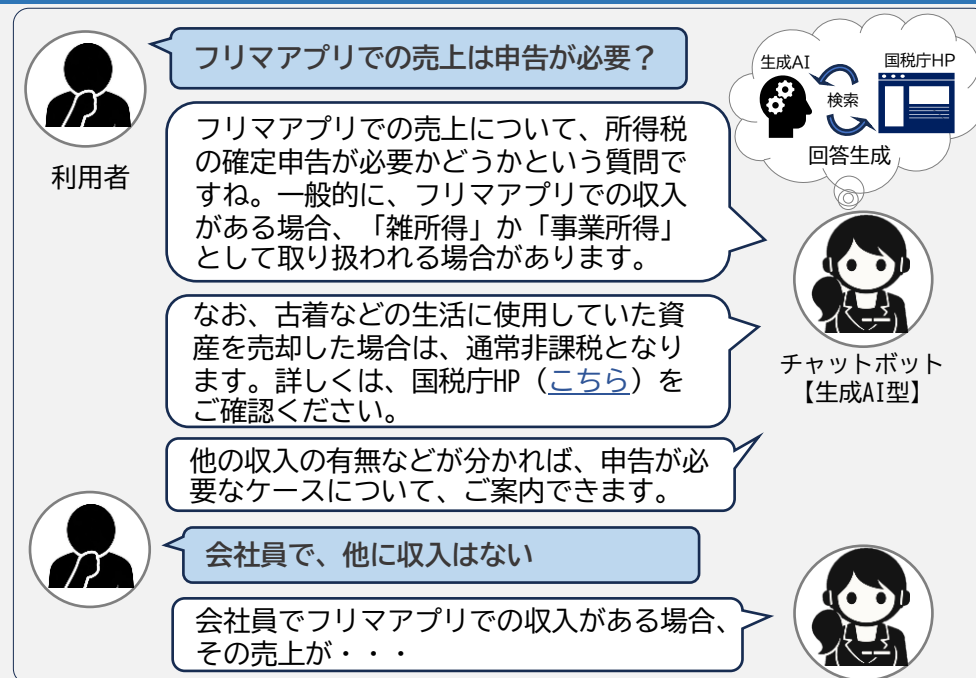
納税者サービスにおける生成AI活用イメージ

- ◆ 生成AIを活用して、納税者の方が税に関する情報にアクセスしやすい環境を整備できないか検討を進めています。
 - ◆ 具体的には、納税者の方と対話を繰り返しながら、国税庁ホームページ上の情報を基に生成AIが回答を行うチャットボットを構築し、納税者の方にとって分かりやすい情報提供を実現していく予定です。
- なお、取組の実現に当たっては、ハルシネーションなどの生成AI固有のリスクを踏まえて、適切な対策を講じます。

◆Before（シナリオ型チャットボット）（イメージ）



◆After（生成AI型チャットボット）（イメージ）



Point

- ✓ 日常で使われている言葉や曖昧な用語・表現からでも質問の意図を理解
- ✓ 国税庁ホームページの情報を基に一般的な内容を分かりやすく回答
- ✓ 追加の質問など、前の会話内容を引き継いだ対話が可能
- ✓ 質問、回答の事績を蓄積・分析し、回答精度の向上に活用